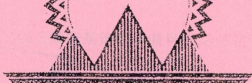


2月の書籍
ベスト5

1. 星空の谷川俊二郎
質問箱 ほほ日
谷川俊二郎著 祖親大輔絵
1. 21世紀の精肉幻想論
シマ社 平川克美著
2. 羊と金網の森
文芸春秋 宮下奈莉著
3. ハリの子でキキふいじん
柏書房文芸文庫 金井真紀
菜月 広岡裕見
3. 老人の取扱説明書
ソフトバンク 平松類著
4. ぼくの伯父さん
つるとはな 伊丹十三著
5. 出好き、ネコ好き、私好き
光文社 林真理著
5. ミルクとほろみ
アタカワスルビニア
野中モト子
5. ローカリズム宣言
テコ 内田好吉著

山陽堂だより 104

2018年3月弥生



山陽堂書店

今月のことば

SIS(山陽堂行ストレーターズ・スタジオ)では、水丸さんに99%の暗闇から1%の光を見出しもらって、長友さんには、ずぼとずぼと続けたい勇氣をもらいました。イラスト：右近西

3/1(金)-10(土) 日休

「SIS企画展『長友先生のことば』」
山陽堂行ストレーターズ・スタジオ(SIS)
二代目講師長友啓典氏から世界から一年。生徒と前にした先生の日はいつも優しくして厳しくもありません。
長友先生が私たちに教えたことは、伝えたいこと、SIS生のなかにも長友先生の言葉とテーマ、有志9名による企画展「長友先生のことば」を開催いたします。
◇参加者 右近西、下あづさ、きくろまる子、コケレシケル・koruha、杉餅シモン、TOMOTA、中村ゆり、井田史絵

3/3(水)-27(火) 日祝休

「春の安西水丸展④」
安西水丸さんの作品、「週刊読書人」で連載されていた8回分の記事、外国で翻訳された書籍などを展示いたします。

3/30(金)-4/9(月) 日休

「五人展」太田文晴、土井村人、信濃ハ太郎、得地通美、山下アキ

- 2月の雑誌・店売ベスト5
1. SPUR3月号 しゃせいのマリア
2. GINZA3月号
クワイターから読める距離
3. 文芸春秋3月号
芥川賞発表
・石井遼雄著・有年泥
・若竹千佳子著・おらあらい
・ひらひら
4. 家庭画報3月号
京の春の庭園
5. BRUTUS 15号 最高の音楽の山手道郎の Brutus Songbook

山陽堂書店3階

不定期営業

喫茶通信

3月1日(月)の21日マカシンより

みなさん

こんにちは。

山陽堂書店3階です。(という言い方はちょっとおかしいですけど)

さて、冗談のような前回の営業日案内「未定」にはこれまでにない反響がありました。

概ね「嘘でしょ?」「そんなことあるの?」といったものだったのですが、当方も案内して始めて「こんなこと、あるんだなあ」と思いました。営業スタンスについては意見が分かれるところですね。

ただ、今後のために再度確認しておくべきことが幾つかありそうなので、今日はそのうちの一つを確認しておきます。

「悪気はない」

それでは、不定期営業を続ける3階の喫茶から、3月前半の喫茶営業日のご案内です。

【3月前半 喫茶営業日】

※書店は通常通り営業しています。

5日(月)15-19時

10日(土)13-17時

(日により営業時間が異なるためご注意ください。)

今回は2日間お約束できる営業日がございます。

営業保証です。(そんな言葉あるのか知りませんが)

それから、山陽堂書店2階ギャラリーからのお知らせです。

本日3月1日(月)から10日(土)まで、山陽堂書店2階のギャラリーでSIS(山陽堂イラストレーターズ・スタジオ)の卒業生

による「長友先生のことば」という展示があります。

作品だけでなく、それぞれが選んだ長友先生の言葉も良いですよ。

お時間ありました是非お立ち寄りください。

詳しくは山陽堂 HP をご覧ください→ SIS 企画展「長友先生のことば」

喫茶や身の回りの出来事だけでなく、書店やギャラリーのことも発信していきたいなという友人のアドバイスが活きていますね。

彼は「というか、これ私的なメールに近いな」とも言っていました。どんな感想でも伝えてくれると嬉しいものです。

あと、それから。(今日は欲張りですね)さっき、歩きながら、本を読みながら、パンを食べている人を見かけ、あと何歩かて本をバクッとしゃしゃないかと、しばらく見入ってしまいました。それではまたお会いしましょう。まんのう

追伸

電車内でのこと。

50代くらいと30代くらいの女性が乗ってきて、隣の席に座りました。

ひとりが「お母さん」と語りかける様子から、ふたりは母娘と思われました。

楽しく話をするふたりの様子を心地よく思いながら本を読んでいたのですが、

平穏な読書の時はふたりの会話から聞こえてきたある言葉により一変しました。

それは話がバレンタインのチョコレートに及んだときのこと。

娘さんは義理の父へ贈る誕生日プレゼントを忘れてしまったらしく、反省を述べたあと、言いました。

「だからね、今年は奮発しておっぱい入ったチョコレート贈ったの」

話を聞いていたお母さんは

「えっ?」

と驚きの声をあげ、話が聞こえていた僕は文字を追う目がとまり、惑いました。奮発が過ぎるのでは!?

「え、おっぱい?」オーディエンスを代表してお母さんが訊ねると娘さんは、

「違うよ、「いっぱい」! いっぱい入ったチョコをあげたの! もおー、そんなわけないじゃん!」

と笑って答え、お母さんも笑っていました。

一緒に笑うに笑えなかった僕は、心乱されたままその後文字が頭に入らず、

「だって、イントネーションは絶対「おっぱい」だったじゃん」と、イントネーション詐欺に遭った思いでした。

ほんとに「言葉」でいいのにな!
と思わたり方もいらしたのよ...
しばらくこらえてやってくれよ!
おバちゃん

この様なメールマカシンで、配信ご希望の方は、
sanyodo1891@gmail.com
(こちらは送信専用となります)に連絡を
お願いいたします。おバちゃん